

2024  
7-9月期



京都企業の  
**BSI値**

Business survey index

インバウンドや建設需要の増加で国内景気は底堅いが  
コスト増の影響等により自社業況は横ばいに

実績

国内景気

海外情勢等の不透明な要素はあるも、インバウンドや建設需要の増加等で底堅く推移

自社業況

コスト増で資金繰りが悪化する一方、建設業等が活況で全体としてほぼ横ばい

予想

国内景気

10～12月期は着実に上昇し、翌年1～3月期にはほぼ横ばいで推移する見通し

自社業況

10～12月期には全ての業種で上昇し、続く翌年1～3月期には再び横ばいを見込む

規模別の業況

大企業では国内景気、自社業況ともBSI値が着実に上昇、中小企業ではいずれも下降した

今後、大企業は堅調に推移する一方、中小企業は翌年1～3月期にかけて一進一退の見通し

# 1 概要

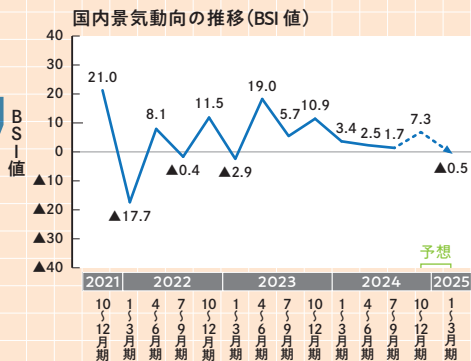
今期の国内景気BSI値は1.7(前期実績2.5)とわずかながら上昇した。海外情勢や為替の動向等不透明な要素がありつつも、依然として好調なインバウンド消費や建設需要の増加等が支えとなり、不需要期にもかかわらず底堅く推移し、6期連続での上昇となった。

今後の予想については、10～12月期は7.3と、着実に上昇し、続く2025年1～3月期には▲0.5と、ほぼ横ばいで推移する見通し。

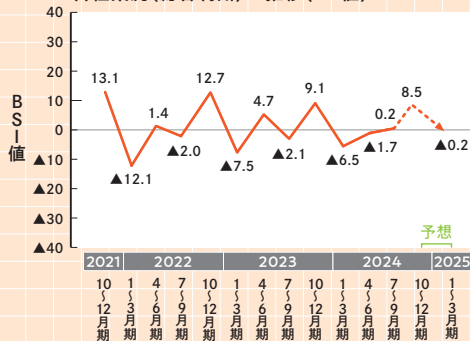
## 国内景気 BSI 値

(前期実績2.5)

1.7



## 自社業況 (総合判断) の推移 (BSI 値)



0.2

## 自社業況 BSI 値

(前期実績▲1.7)

今期の自社業況BSI値は0.2(前期実績▲1.7)とほぼ横ばいとなった。原材(燃料)価格の高騰および人件費負担の増加による影響が利益を圧迫し、多くの業種で資金繰りがやや悪化した。猛暑等の影響で観光客による消費が落ち込み、小売業やサービス業等で下降した一方、建設業等では大阪・関西万博に関わる工事等が施工高の増加に寄って上昇した。

今後の予想については、10～12月期は全ての業種でBSI値がプラスとなり、8.5と着実に上昇した後、続く2025年1～3月期には再びほぼ横ばいとなる見込み。

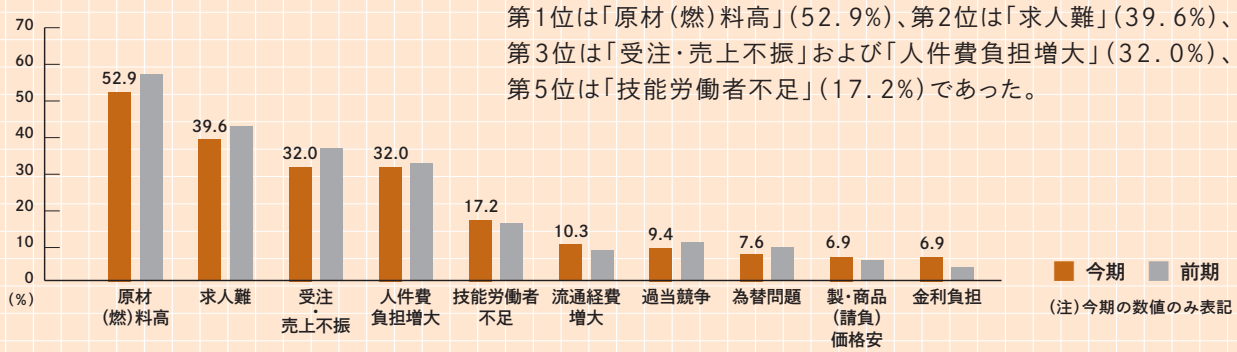
# 2 BSI値の総括表

(注)7～9月期のBSI値は、4～6月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

		実績		予想	
		2024年4～6月期	2024年7～9月期	2024年10～12月期	2025年1～3月期
京都企業の経営動向	国内景気動向	2.5	1.7	7.3	▲0.5
	自社業況(総合判断)	▲1.7	0.2	8.5	▲0.2
	1. 生産・売上高、工事施工高	▲2.3	▲0.6	13.5	▲2.3
	2. 製・商品・サービス・請負価格	13.1	9.7	11.4	8.0
	3. 経常利益	▲7.6	▲4.4	7.2	▲4.9
	4. 所定外労働時間	▲2.2	▲2.9	5.4	▲2.8
	5. 製・商品在庫	8.5	6.1	4.6	2.8
6. 資金繰り	0.0	▲3.2	0.2	▲2.1	

(注) BSI値=(上昇[増加、他]-下降[減少、他])×1/2

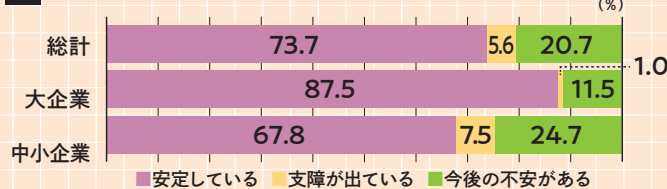
# 3 当面の経営上の問題点



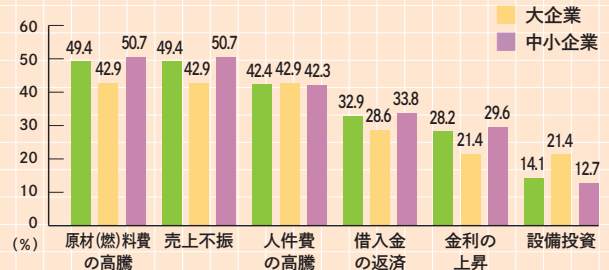
# 4 附帯調査 —ピックアップポイント—

**資金繰りについて** ▶ **資金繰りに支障・不安を抱えている企業は約3割**  
**新型コロナウイルス関連融資を受けた企業のおよそ3分の1が返済に苦慮**

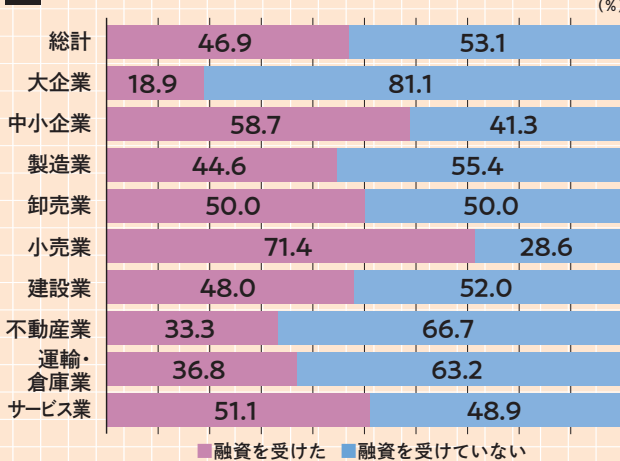
## 1 現在の資金繰りについて



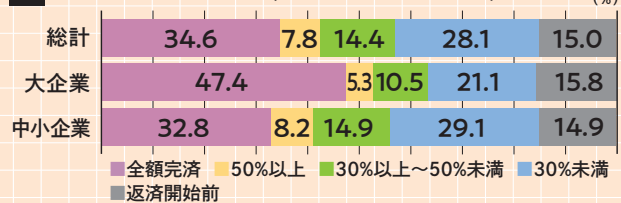
## 2 支障・不安の原因について



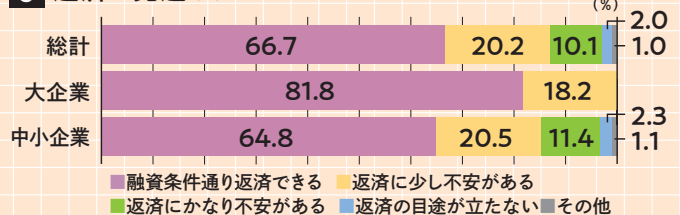
## 3 新型コロナウイルス関連融資の利用状況について



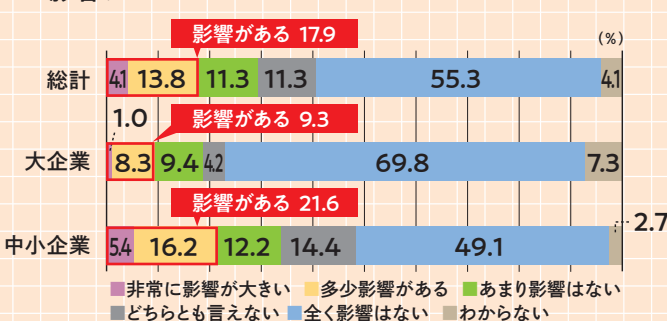
## 4 返済状況について(既に返済した割合)



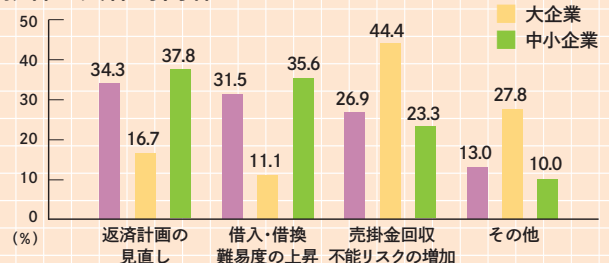
## 5 返済の見通しについて



## 6 新型コロナウイルス対策の資金繰り支援措置終了に伴う影響について



## 7 影響の具体的内容について



京都企業のBSI値：8月中旬から9月上旬にかけて同調査を実施し、504社中331社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店等を持つ企業)。

【お問い合わせ】 中小企業支援部 ☎075-341-9780 調査結果概要は本所ホームページからダウンロードできます。 [京都商工会議所 BSI値 検索](#)